

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 関西学院大学の学生に身につけさせたい知識や能力を「KG学士力」として定義する。	→ 「KG学士力」の定義	B
2. 「KG学士力」に対応した教育目標や学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を明示、公表する。	→教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針の決定、公表	C
3. 「KG学士力」の質を保証するための仕組みを構築する。	→質保証するための仕組みの構築	C
4. 「KG学士力」の質が保証できているかを検証するシステムを構築し、明示する。	→検証システムの構築、明示	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

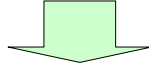
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.1.1	(方針) 現在、学位授与方針は明示されていない。 (現状説明) 学則別表として、学部・学科ごとの「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」が定められている。これが教育目標といえるものであり、これにもとづく学位授与方針を、大学新中期計画の（教育）A-7の実施計画の成果目標として2012年度に公表できるよう検討を進めている。検討にあたっては、2010年4月に教務部に設置された「共通教育センター」を中心に進めている。 現在は、各学部が学位授与方針を明示していくために必要な「卒業時に備えるべき力や能力」を明確化するための検討を進めている。具体的には、新基本構想にある「めざす人間像」に本学学生が卒業後もめざしていくことができる知識・能力・人間性などの包括的な概念を「KG学士力」と定義し、それを構成する要素を定めている段階である。
☆ 小項目6.1.2	(方針) 現在、教育課程の編成・実施方針は明示されていない。 (現状説明) 現在、各学部の教育課程について、科目の区分や必修・選択の別、単位数等は当然明示されているが、編成・実施の方針という形では明示されていない。教育課程の編成・実施方針は、教育目標、学位授与方針にもとづき定められるものであり、上記の学位授与方針の明確化と並行して検討し、2012年度に同時に公表できるよう進めていく。
☆ 小項目6.1.3	(現状説明) 教育目標や2つの方針について、特に2つの方針は明示されておらず、周知もされていない。卒業要件や教育課程の編成や内容については、学則に定められており、履修心得等により教職員、学生には周知されている。しかし、そのポリシーは明示されておらず、また社会への公表といった点でも不十分な面がある。
☆ 小項目6.1.4	(現状説明) 教育目標や2つの方針について、特に2つの方針は明示されておらず、定期的にその適切性が検証されているとはいえない。卒業要件や教育課程の編成や内容については、学部において各種委員会のもとで継続的に見直しが行われていることは確かであるが、どのようなポリシーにもとづき検討されているかは明らかではない。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



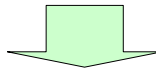
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
☆ 小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.1.1	予定どおり進めていけるよう、検討体制を維持・強化する。
小項目6.1.2	予定どおり進めていけるよう、検討体制を維持・強化する。
☆ 小項目6.1.3	小項目6.1.1、6.1.2の推進を図り、並行して周知および広報について検討を進める。
小項目6.1.4	小項目6.1.1、6.1.2の推進を図り、並行してその適切性の検証を定期的に行う仕組みについて検討を進める。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.1.1	中心的に携わっている職員を中心に、さらなる情報の収集と提供を行い、適切な案の提示と推進が行えるよう、体制の強化を図る。
小項目6.1.2	同上
☆ 小項目6.1.3	全学的な教育情報公開の方策検討ともあわせて、適切な周知と公開の方策を検討していく。
小項目6.1.4	他の項目の検証の仕組みと合わせて検討を進める。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○誠実な自己点検がなされており、「現状説明」も明快です。

【学内委員】

○現状の説明において、「学位授与の方針は明示されていない。」「教育課程の編成・実施の方針は明示されていない。」と率直に記述されています。学部ごとに早急に定め、明示することが必要です。方針を明示する必要性について全学的な合意を得る方策を示すことが望まれます。

○学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が明示されていないことは致命的な欠陥と言えます。新基本構想、新中期計画の着実な実施を期待します。

○「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」が2011年4月より施行されます。内容を十分吟味され、遺漏なきよう対応してください。なお、努力義務である項目についても早急に対応しておくことが望まれます。

○本項目に対して着々と検討されていることが伺えます。教育の質保証が重視されている現在、これらの検討事項は今後の関西学院の基本となります。迅速且つ慎重な検討が期待されます。

○小項目6.1.4については大変検証が難しいと思いますが、定期的な検証がなければ改善に結びついていきません。定期的な検証を促す案内を行なうなどシステムの構築をお考えください。目標の4の実現が期待されます。

○「KG学士力」の質を保証するための仕組みやそれを検証するためのシステムの構築は重要ですが、「KG学士力」の内容をより明確にし、それを周知・徹底させることが焦眉の急であると思われます。それに基づいて教育目標や学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を明示され得るからです。

○改善方策は出来るだけ具体的であることが求められます。「強化を図る」「検討する」だけでは曖昧です。より具体的な記述が望まれます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○改善すべき事項【次年度に向けた方策(2)】小項目6.1.1の記述を次のように変更する。
「中心的に携わっている職員を中心に、さらなる情報収集を行い、各学部教務主任により構成された会議に適切な案の提示を行う。」

★

○改善すべき事項【次年度に向けた方策(2)】小項目6.1.3の記述を次のように変更する。
「全学的な教育情報公開の方策検討に留意しつつ、適切な周知と公開の方策を提案する。」

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.1.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.1.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.1.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.1.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの授業科目開設数
6.1.0.S5	必修・選択ごとの開設授業科目数
6.1.0.S6	系列別卒業必要単位数

<個別的な指標>
